

モンゴル

2000年1-9月期の経済

鉱工業部門は、鉱業部門が好調である一方、工業部門が不調なために全体としては低調である。雪害などによる牧畜業への影響は以前として尾を引いている。農業では収穫量が軒並み減少している。対米ドル為替レートはトグリク安で1,085.6トグリクとなっている。他方、好材料としては、輸出の好調は続いていること、肉の価格の上昇を主要な原因として高騰していた物価は下がり始めたこと、財政状況が改善されていることが挙げられる。

部門別の動向

鉱工業部門の生産額は、前年同期比で2000年上半期はマイナス成長であったが、1-9月期でみるとプラス成長に転じ0.2%増となった。鉱業部門の好調と工業部門の不調はそれぞれ持続されている状況になっており、前年同期比で鉱業部門は10.9%増、工業部門は11.6%である。金、蛍石の生産量は30%増、織物工業は46%となっている。

年初の雪害に始まった牧畜業への影響は尾を引いている。1-9月期の成体家畜の損失頭数は301万頭で、前年同期と比較すると約5.1倍である。1999年の6-9月期の成体家畜の損失頭数が5千頭であったのに対し、2000年同時期は11万3千頭で、特にドルノゴビアイマグでの損失が著しい。肉の生産量は前年同期比で52.1%であるが、1-6月期の4トンから7-9月期には739トンと大きく回復した。家畜及び家畜製品の輸出額は前年同期の11,657千米ドルから10,500千米ドルと約10%減となり、2000年上半期時点での20%減からみると回復に向かっている。家畜及び家畜製品の輸入額についても、前年同期比で上半期は100%増であったが1-9月期は57%増となっており減速傾向である。国内での肉の供給が回復したことにより、上昇傾向であった肉の価格に落ちつきが見られる。

農作物類の収穫量は、どれも前年と比較すると下回って

いる。穀物が24%、ジャガイモが8%、野菜が12%、干し草が5%である。

食料品の上昇を主要な要因としていた物価の上昇は落ち着き、9月末のインフレ率は4.9%、6月末と比較すると12.5ポイント下がった。食料品の価格は6月から下がり続けている。全体としてインフレは落ち着いているが、水道料金が7月に36.8%値上げされている。また、冬の備えに向けての需要が高まり、石炭の価格が9月にきて16.7%値上げされた。

上半期末と比較すると財政赤字は改善され、373億トグリクである。前年同期比で歳入は31%増、歳出は13%増である。特に、歳入面では法人税と関税による収入が大きく伸びている。

輸出入とも拡大基調

貿易の拡大は続いている。輸出額は43.2%の増加で3億2,980万米ドル、輸入額が34.7%の増加の4億1,560万米ドル、貿易総額は7億4,550万に達し38.3%の増加となっている。貿易収支は8,580万米ドルの赤字となり、前年同期と比較すると赤字が750万米ドル増えている。

品目別に輸出をみると、銅や蛍石などの鉱物性生産品は45%増の1億3,240万米ドル、カシミアなどの繊維・繊維製品は53%増の1億4,214万米ドルである。他方、輸入は、テレビなどの機械・電気機器等は4%増の9,159万米ドル、石油などの鉱物性生産品が24%増の6,982万米ドルとなっている。国際市場価格の上昇を反映して、石油の輸入額は増加しているが輸入量は前年並である。

貿易相手国別にみると、輸出では、アメリカ、韓国、中国向けが大きく伸びているが、ロシア、日本は減っている。主要な輸入国であるドイツ、ロシア、韓国、中国、日本との取引額は増加しているが、アメリカは減少している。

(ERINA調査研究部研究員 浜田充)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	00年1-9月
鉱工業生産(前年同期比:%)	12.0	2.5	4.4	3.2	1.3	0.2
消費者物価上昇率(対前年比:%)	53.1	44.6	20.5	6.0	10.0	4.9
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	1,266.4	1,241.4	1,204.0	1,273.6	1,346.3	1013.6
失業者(千人)	45.1	55.4	63.7	49.8	40.1	38.6
対ドル為替レート(トグリク、期末)	473.6	693.5	813.2	902.0	1,072.4	1,085.6
貿易収支(百万USDドル)	58.0	26.6	16.8	158.1	154.5	85.8
輸出(百万USDドル)	473.3	424.3	451.5	345.2	358.3	329.8
輸入(百万USDドル)	415.3	450.9	468.3	503.3	512.8	415.6
国家財政収支(十億トグリク)	4.7	48.3	65.1	97.5	85.0	37.3

(注)失業者数は期末値。消費者物価上昇率は各年12月、2000年は9月の値。貨物輸送、財政収支は年初からの累積値。
(出所)モンゴル国家統計局、「モンゴル統計年鑑1999」、「モンゴル統計月報2000.9」